

校長室からこんにちは！

No. 29

2月4日 立春
発行者 中田 禎二

キャリア教育

1位…上司・経営者の仕事の仕方が気にいらなかった。2位…労働時間・環境が不満だった。3位…同僚・先輩・後輩とうまくいかなかった。4位…給与がひどかった。5位…仕事内容が面白くなかった。これは、Yahoo「キャリアアップ特集」の中の「退職理由ランキング」です。

そこで、上司・経営者を校長・教職員、労働時間を授業時間、環境を学校環境、同僚を友達、先輩・後輩を上級生・下級生、仕事内容を学習内容と言い変えてみることにしました。

はたしてドーハっ子はどうでしょう。当然、どの子にも課題があることを前提としても、みんな与えられた環境の中で、その環境を生かし積極的に活動しています。教師の指導を素直に聞き、仲間を大切に、例え得意でない勉強があっても、体調が十分でないときでも一生懸命取組もうとします。実際私も授業に出てたびたび感じています。

私はこれらのことから、ドーハっ子たちが将来職業選択をした時、いとも簡単に短絡的な発想で職を辞することはないと思います。また、私たち教師は自信をもってそう言えるだけの指導に努めねばならないと思います。

学校では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」キャリア教育に取り組んでいます。

先日、来校したカタールの女子高校生が私に日本の発展や教育の良さの秘密を質問しました。私は教育のこと、歴史・文化のことに触れながら回答していきましたが、そこで言いたかったのは「人材である」との、キャリア教育の視点でした。

義務教育9年間の過程で大切なことは先日の「花育」ではありませんが、愛情を持ってしっかりと水をやり、でもやり過ぎず、そして、しっかりと根を張り世界に一つしかない花を咲かせるよう、決して派手ではない地味な一時間一時間の積み重ねだと考えます。

日本の義務教育の在りようこそが故国の緑の山河の緑をより濃くし、人材の根っ子を張るんだとの意気込みで本校教職員は努めています。

キャリア教育は生涯学習の流れを形成する大切な教育的視点を持っています。

校長写真館



ドーハっ子の運動会への熱い思いが天に通じたのでしょうか。天気も回復し、今年もアルライヤンパークで「日本の運動会」を行うことができました。

学校・大使館・日本人会という三本の矢の絆を感じた如月一日でした。ありがとうございました。

ちょっとお耳を…

日本人学校の児童・生徒を対象にした文芸作品コンクールに応募した。そして、詩の部門で小5の菊池君が会長賞、俳句の部門で小3の蜂巢君が優秀賞、短歌の部門で中2の土江さんが佳作に選ばれた。また、本校も学校賞を受賞した。

3人の作品には研ぎ澄まされた感性が窺える。感性といえば、感性とは何ぞやを議論した時の忘れられない師匠の解釈がある。

それは、「そのものの価値に気付くこと」

気付かないのは気付こうとしないだけのこととの言葉と共に。